

天地

ネットワーク テーブル 432号

発行：天地シニアネットワーク／2016・9・15

「目 次」

TENTI・TODAY			1
会員の広場<パソコンでの検索サイトの広告><奈良好きの奈良小旅行>			2
連載作品			4
隨 想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ— 9. コペルニクス—天体をならべかえよ	伊那 閑歩	4
隨 想	『資治通鑑』について（4）	赤羽 清志	7
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語（8） <曼殊院門跡>	大竹 漢洲	11
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		14
事務局			15

TENTI TODAY

小池新知事が、豊洲問題で孤軍奮闘がんばっていますが、どのように考えても、食の安全に関わることですから、都側の対応は不十分で、知事に軍配が上がります。長い目で見れば、結果的には、良かったといえそうです。あの状態では、仮に国内は、抑えられても海外からの批判には耐えられないでしょう。日本の食の安全神話を維持することは、将来への責務です。

不思議だったのは、日経新聞。小池知事に批判的で、早期移転を促すような記事を連日載せていましたが、基本的なところ（安全性）を抜きにし、目先の経済的なロスばかりを取り上げる姿勢、経済専門紙だから許されるということはないはずです。

野球ファン、特に高齢者のファンには大学野球の愛好家も多いのではないかと思います。東京6大学は人気があり、明治の杉下、早稲田の蔭山、慶應の大島、法政の関根など、その後、プロ野球で大活躍する選手が大勢いました。

最近の大学野球、人気が今一つです。有力な高校球児が直接プロへ行くということもありますですが、試合数が少ないので、人気が盛り上がりにくい原因に挙げられそうです。おそらく専用球場が無いということが、大きな理由と推測されます。

大学スポーツは、曲がり角を迎えてます。関東大学バスケットボールのリーグ戦が始まりました（秋1回）ので、OBとして応援に行きますが、試合会場が毎週のように転々と変わるので、対応が大変です。我がチームの試合数は11試合ですが会場は次のようになっています。

成蹊大学（吉祥寺）、獨協大学（松原団地）、亜細亜大学（武蔵境）、帝京平成大学（池袋）、帝京大学（聖蹟桜ヶ丘）首都大学東京（南大沢）、横浜国大、と7か所です。選手も大変ですが、場所に加え時間もまちまちなので、高齢者OBは、試合会場に辿りつくまで大変です。

会員の広場

豪雨、堤防決壊、洪水、浸水、崖崩れ、地震、建物崩壊、集落孤立、停電・・・・神様が、何かに怒っているような。

小生駄文の掲載、感謝です。

今の若い世代には、ほとんどが想像の世界なのでしょうか。例えば「空腹」という言葉は知っていても、その程度も状態も、全然違うんでしょうね。

有田

ありがとうございました。今回は表示できました。再三お手数をおかけしました。

新聞の広告ページが増えたとのこと、新聞もですが、私が最近特に感ずるのは、パソコンで、Yahoo や Biglobeなどの検索サイトの広告がやたら多くなったことです。

しかも動画が多いので、データ量が大きく、私の小さなメモリー (RAM) の古いパソコン（まだ VistaOS を使っています）では、検索サイトを開くのにやたら時間がかかる、いつもいらっしゃいます。

メモリー負担を減らす工夫は出来るかぎりやっているのですが、やはり RAM を増やすないとだめのようです。しかし古いPCにそんな金をかけても意味ありません。

しかも Vista ではインターネットエクスプローラーが 9 版 (IE9) から IE11 へバージョンアップできないため、今年初めから e-tax も出来なくなりたり、地図ソフトなどいくつかのソフトも次々とサポートされなくなりました。

そこでやむなく Windows10 マシンを買って移行作業を進めています。Windows10 は、クラウドを利用した新たな機能や、タッチパネルの機能などが売りですが、操作性は Vista とはまったく異なり、メールは従来との継続性がなく、アドレス帳も一旦 WindowsLive メールのマシン (Windows 7 or 8) で変換してからでないと 10 へもって来れません。しかもややこしくて、かなり PC に精通している人でも苦労します。

まったくメーカーの身勝手商品という感じです。まだ Vista がのろのろながらも動くので、時間をかけて移行しようと思います。

国が 15 年ほど前から、シニアにパソコンとインターネットを普及させようとアドバイザー制度を作ったりして来ていますが、メーカーの戦略はまったく違う方向に向いているような気がします。

~~~~~

伊藤 英俊

~~~~~

奈良好きの奈良小旅行

9月初めに娘と夫婦3人で奈良へ行ってきました。今回は、娘の都合に合わせてだけの理由でしたので、好みの場所を優先しました。

我が家は皆、奈良好きです。奈良が京都よりなぜ好き?といわれると、説明に困りますが、京都より歴史が古く、木々が鬱蒼、人が少なく、寺院も大きいというところでしょうか。

奈良とのご縁は、「瓦寄進」を通じて「興福寺友の会」会員になったのがきっかけで、20年近くになります。以後、毎年10月の第一土曜日の夕に行なわれる『塔影能(奉能)』への案内がくるようになり、出かけるようになって一気に奈良が近くなりました。

『塔影能』は、国宝の五重塔と東金堂の前庭で能と狂言が演じられる伝統行事です。「奉能」ですから読経で始まり、月光下で能、狂言が演じられ、独特的雰囲気、緊張感があります。

『塔影能』の折には、数日滞在して奈良盆地を歩くことにしました。「山辺の道」も距離がありますので、「奈良一天理」「天理-桜井」と二回に分けて歩きましたが、明日香、吉野、柳生、斑鳩、宇陀など、いろいろなルートをせっせと歩きました。最後は3年ほど前に大和三山(香久山、耳成、畠傍)を一日で歩きましたが、もう無理なようです。

奈良での好きなスポット上位は、室生寺、白毫寺、橘寺。今回も室生寺の石段を登り切って奥の院まで行きましたが、きつくてこれが最後となりました。白毫寺は、萩で有名、未だ早かったのですが、奈良盆地を一望できる眺望と静かな佇まいは、相変わらず素晴らしいものがあり、大満足。

時間が空いたので、橿原神宮へ寄りました。元官幣大社ですから立派です。大鳥居前に紀元26・・年の張り紙がありました。再来年の2018年は、明治150年で、記念祭が取り沙汰されているようです。ただ明治維新の再検証が無いと、150年史も単なる物語になる可能性がありますので、気になります。

奈良でのホテルは、「ホテルフジタ」に決めています。JR奈良駅と近鉄奈良駅の中間にあり、便利です。

食事は、昼食は、日本そば「蘿」(白毫寺行く途中の高畠停留所の一つ前、降りて直ぐ)、夕食は創作料理の「梁山泊」(率川神社先)とだいたい決めてあり、一度は必ず行くことにしています。

奈良公園は、アジア系の外国人が目立ちましたが、鹿が人気。エサの鹿せんべいを、直接食べさせられるのが好評のようです。ただし、ほとんどの鹿が暑さでグロッキーの様子で、寝そべっていました。

最近、全国的に流行のようですが、都市と現代アートのコラボの催しがあ

ちこちで行われています。奈良でもスタートしたところで、興福寺の境内北円堂の前に、奇怪な卵が鎮座していました。



ついでですが、京都での食事は、四条河原町先の南座の向かいのビル7Fにある、ロシア料理「キエフ」に、寄るようにしています。京都でロシア料理というのも変ですが、大学時代の同級生で、住友金属工業の役員をした加藤さんが実家を継いで経営しているお店で、こじんまりしていて雰囲気が良く、本格的なロシア料理が楽しめます。加藤登紀子さんは実妹です。頼まれてはいませんが、京都へ行って、どこかというときには、どうぞ。

(津田)

連載作品

天のわざ、地のほまれ
— 地球を測れ、宇宙をはかれ —

伊那 閣歩

9. コペルニクス—天体をならべかえよ

“それでも（地球は）動く” — 法廷で異端誓絶書を読み上げさせられた後にガリレオ・ガリレイ（1564-1642）が呴いた言葉としてあまりにも有名である（ガリレオは、こんなこと呴かなかつたという説があるが、では、あなた確かめたの？と聞きたい。筆者（閣歩）は、呴いたとする説の方がガリレオの人間性をリアルに表現していて面白いと思っている。なお、辞書にはガリレオのイタリア語の呴き “Eppur si muove” が例文として出ている）。

そもそも“動く”とはどういうことか、まず考えてみたい。もし、この宇宙に何もなく、その広い空間にロケットのような乗り物に乗せられて放り出されたとしよう。その時、ロケットのスピードはどうなっているのであろうか。物体がたったひとつだけ空間中に存在する状況では、じつは、スピードという物理量には何の意味もない。ここで突然、もうひとつのロケットが現れて、すれ違ったとする。このときはじめて、両者の相対速度としてスピードという概念が意味を持つことになる。もし両者が衝突したとしよう。こちらは、相手がぶつかってきたと感じるかもしれない。しかし、相手は逆に静止していてこちらからぶつかっていったと思うかもしれない。こんなことを

主張しあっても何の意味もない。運動は相対的なのだ。つまり、物体の運動を測定するためには、なにか基準になる点（あるいは物）を原点として設定しなければならない。ロケットがふたつ存在する場合、原点（静止点または観測点）をどちらにとっても任意であって、どちらか一方に限られる理由はない。

そこでガリレオの言葉について考えると、かれは太陽を中心（不動の原点）として地球は太陽のまわりを回る（動く）と主張している。一方、カトリックの僧侶やアリストテレスやプトレマイオスを信奉する学者たちは、地球を不動の原点として、そのまわりを太陽が回っていると考える。太陽と地球だけからなる力学系を考えるならば、両者の運動はお互いに相対的であるから、僧侶たちの主張もガリレオのそれもどちらも正しいのだ。

ただ、わが太陽系においては、水星と金星は、地球よりも内側にいて太陽の周りを回っているのであるから、それらが天動説（地球中心説）によって、地球の周りをまわるとしてそれらの位置を予想するのは、無理なはなしである。例えていえば、東京スカイツリーの展望台から眺めて、JR 山手線の電車はみなスカイツリーのまわりを回っているぞ！と誤認するようなものだ。

クラウディオス・プトレマイオス（83-168）の天動説（地球中心説）は、古代ギリシャのアリストテレス（BC384-BC322）やアポロニウス（BC262-BC200）そしてヒッパルコス（BC190-BC120）の説を集大成したものとされるが、天体が地球を中心として天に並ぶ順序は地球からちかいもの順に

地球→月→水星→金星→太陽→火星→木星→土星→恒星天

となっていたのであった。地球は宇宙の中心であって、各惑星は、地球の周りの円（従円という）軌道上を一定のスピードでまわっている。ここでは太陽も地球の惑星のひとつで、金星の外側の円軌道上（従円上）を回っている。この宇宙モデルが 1000 年以上にもわたって信じられてきたのだ。

しかし素朴なプトレマイオスの地球中心説は、このままでは、とても実用に供するわけにはいかない。あちこちで（惑星の位置の）予想は狂ってくる。そこで、ありとあらゆる修正がほどこされたのだ。たとえば、惑星が（見かけ上）天空での動きをとめてそれから後戻り（見かけ上逆行）をはじめることが知られているが、その説明のために、従円に周轉円（補助円）をくっつけて周轉円上を惑星が運行するとする。いや、惑星の軌道は離心円（その中心が地球の中心と一致しない従円）である。いやいや、エカントという目に見えない仮想の点を中心として惑星は等速運行している、などとして、見るも醜怪な宇宙モデルが作りあげられていくのだ。ただし、プトレマイオス宇宙モデルにたいするこれらの修正のなかには、現代天文学と照合してみて、なるほどと思えることも少しある（F. ホイル：『コペルニクス』絶版）。

しかしながら、天動説（地球中心説）による宇宙は所詮、無駄な努力の積み重ねによって作り上げられた醜い殿堂であった。こんなあちこち継ぎはぎだらけの掘っ立て小屋のような醜い宇宙が、天のわざによって創造されたはずはないのだ。「神は人間をまっすぐに造られたが、人間は複雑な考え方を

したがる（旧約聖書：賢者コヘレトの言葉）」

プトレマイオスの天動説を妄信する人たちに反撥して天動説にうんざりしている知識人もいたにちがいない。コペルニクスもそのうちのひとりであった。

ニコラウス・コペルニクス（1473-1543）はポーランドに生まれ、クラクフ大学を卒業後、イタリアのボローニャ大学で教会法を学び、フェラーラ大学において法学博士の学位をとっているので、もともと法律の専門家であった。しかも数字の扱いや計算もかなり達者であったと思われる。パドヴァ大学では医学をも修めているところをみると、コペルニクスは学問を愛する多才な人物であったようだ。いろいろまじめに修行して、教会の司祭になり、聖職者として高い収入を得るまでになっていた。ところが、かれの主な関心は、宇宙（の研究）に向いていたのであった。ボローニャ大学では天体観測の手ほどきもうけていたのだ。1510年、かれはポーランドの北部フロムブルグに天文台を建設し、以後、終生そこで天文学の研究をつづけたという。

コペルニクスは、天体の運行について思索を深めていった。まず、プトレマイオスの宇宙モデルをよくしらべてみた。火星、木星、土星など外惑星については（従円にひとつの周転円のついた）プトレマイオスのモデルで良いとしよう。コペルニクスは、周転円の設定には違和感がそれほどなかったようである。しかし、水星と金星の軌道については、プトレマイオスのモデルにたいへんな違和感をおぼえたのだ。なにか（詳しく述べることはできないが）人為的な不自然さが目立ち、うさん臭くとても容認することは出来ない！

外惑星は地球から見て太陽と反対側を運行することは普通にあることだが、水星と金星は黄道（地球から見て、太陽が通過する天球上の大円）上において太陽からおおきく離れることは決してない。つまり、真夜中に水星や金星が中天高く輝いていることはなく、それらが観測されるのはいつも、明け方か暮れなずむ黄昏の短い時間に限られるのである。また、聖書の世界はいざ知らず、太陽がその動きを止め逆行するようなことは一度もなかった。こうしたことからコペルニクスは、宇宙の中心は地球ではなく太陽であることを確信した。つまり JR 山手線を走る電車（水星、金星）はスカイツリー（地球）のまわりを回っているのではなく、東京タワー（太陽）のまわりを回っているのだ。

フロムボルグに落ち着いたコペルニクスは、かれの考察の結果を世に問うべく、匿名で短い論文『コメンタリオルス（概要）』（天体の運行の仮説に関するコメント）を書いた。かれは弟子と共に、これに加筆し、30年後『天体の回転について』を書き上げた。そこに提示されたことを以下にまとめておこう：

（1）太陽が宇宙の中心であって、惑星は太陽の周りを、太陽から近い順に
太陽→水星→金星→地球→火星→木星→土星→恒星天
のように並び、太陽を中心とした各固有の円軌道上を公転している。

（2）月だけが地球の周りを回って（公転して）いる。

- (3) 地球上の物体は、地球の中心に向かって引きつけられている。
- (4) 地球-太陽間の距離は、恒星天までの距離に比較すれば無視できるほど小さい。
- (5) 地球は自転している。太陽やその他の天体が空を一日に一回転するように見えるのは、地球が一日に一回転するためである。
- (6) 惑星のみかけ上の逆行現象は、地球が火星や木星、土星に近づきそして離れていくとき、または水星や金星が地球に近づいてきて離れていくとき（追い越していくとき）に起きる。

コペルニクスの宇宙モデルは、惑星の逆行現象をスッキリと説明できたのであるが、プラテマイオスの宇宙より必ずしも優れているわけではなかった。その最大の理由は「惑星の軌道は円である」ということにこだわったためである。円以上に天のわざを正しく表現できる形があろうか！コペルニクスは、円の中心は太陽上にあるとしても、それらが一致するとは限らないとし、周転円をも導入せざるをえなかつた。これらの困難は、コペルニクスの死後半世紀を経て、ケプラーによって完璧な形で（次回に詳述）解決されるのである。

コペルニクスの著書は、かれの死後おおやけにされたという。まさに「コペルニクス的転回」によって宇宙の見方を根本的に変えたのである。しかし、当初は本の部数も少なく、難解であったためか、ほとんど世の注目を浴びなかつたという。キリスト教会からのさしたる批判も受けなかつたようである。当時のカトリック教会は、天動説にそれほど固執することもなく、イエズス会などはむしろ地動説を歓迎していたふしもある。しかしながら、コペルニクスの地動説が徐々に知られるようになり、ルターやカルヴァンなどプロテスタントの指導者からもあからさまな批判をあびるようになり、ガリレオの生きた時代にそれは頂点に達するのだ。

2016.7.9

『資治通鑑』について（4）

赤羽清志

参考 『China 2049 秘密裏に遂行される世界霸権 100 年戦略』
マイケル・ピルズベリー 2015.9 日経 BP 社

『中国4.0 暴発する中華帝国』

エドワード・ルトワック 2016.3 文春新書

『本当に残酷な中国史 大著「資治通鑑」を読み解く』

麻生川静男 2014.9 角川新書

『資治通鑑選』 中国古典文学大系 14

編石川忠久他 1970.8 平凡社

1. 中国人のド派手な贅沢・桁外れの蓄財

この二つの罪悪は中国人の宿痾であり、この伝統は現在の共産党政権の下でしぶとく生き延びている。（薄熙来、周永康など）

- ① 後漢の大將軍・梁冀、妻・孫寿の庭園の築山は周囲 5 km、ウサギ園周囲 10 数 km、珍獸を放し飼いにし、昼夜かまわず宴会を催した。また、極悪非道の悪行を積み重ね。刺客を使って桓帝の和皇后の親戚を殺そうとしたので、左遷されその後自殺した。一族は処刑され、全財産は没収されたがその額は国家租税収入の半年分に相当した。
- ② 西晋・武帝（司馬炎）の時代、景献皇后の叔父・羊琇、明皇后の弟・
王隱、散騎將軍・石崇は贅沢を競い合った。
- ③ 清の西太后は超グルメで有名、毎日 2 回の正餐の料理は 200 皿、2 回の間食の料理は数 10 皿であった。
- ④ 殷の紂王は、水牛、象、豹の腹子などの料理を好んで食べ、象牙の箸を使い翡翠の器に盛った。
- ⑤ 晋の何曾は 1 日の食事に 100 万円を費やし、衣服、住居、車馬などすべてにおいて帝室を凌いだが、孫の何綏の代に司馬越によって全滅させられた。
- ⑥ 519 年、北魏の元雍の召し使い 6 千人、歌手・踊り子 5 百人、大邸宅で毎晩宴会を催し、1 回の食卓の費用は数百万円であった。
- ⑦ ド派手な建築 戦国時代の諸侯は豪華な宮殿を競って造営した。
- i) 秦の始皇帝は、征服した諸国の宮殿のレプリカを都咸陽に作らせた。また、贅沢な阿房宮を造ったが、項羽によって焼かれたとき、燃え尽きるまで 3 か月かかった。
- ii) 則天武後の息子・中宗の妃たちの間では、女の贅沢バトルが繰り広げられた。韋皇后の娘・安樂公主と実姉・長寧公主は、邸宅の贅沢を競い合った。また、暴虐な振舞いも多く、父親の毒殺を企てたが、李隆基（玄宗）によって処断された。
- iii) 楊貴妃の 3 人の姉、崔氏と結婚した韓國夫人、裴氏と結婚した虢國夫人、柳氏と結婚した秦國夫人は揃って美人であったが、互いに競い合って壮麗な邸宅を建て、贅沢を際限なく繰り返した。
- iv) 唐の代宗の寵臣・魚朝恩の別荘は代宗から賜ったが、その改築費は

100兆円であった。

v) 6世紀、北斉の4代武成帝、5代後主はともに暴虐、建物や庭も贅を凝らしたが、好みがころころと変わるために、造っては壊し壊しては造り、常軌を逸していた。

vi) 隋の煬帝は、豪華客船の造営、ド派手な舟遊び、運河の開鑿など、贅沢さは史上ぶっちぎりで一番であった。

2. 中国を打ち負かすには

中国の野望を打ち碎くか、少なくとも抑制する戦略を固めるには、政策立案者が中国古来の知恵と戦略を学び、中国が何をしてきたかを知ることである。

① 問題を認識する。

中国が、アメリカ始め各国と拠力関係を築くと言っておきながら、相手を騙して来たことを知り、中国が生活保護受給者ではなく、知的財産泥棒、為替操作、援助金の不正受給等による経済の高度成長と霸権を獲得する意図を認識する必要がある。

② 己の才能を知る

アメリカをはじめ、各国は最大の敵国を財政支援しているばかりか、どれだけの額が遣われているか把握していない。この把握・公表が中国が歴史的に痛めつけられてきたという主張に反論することができる。

③ 競争力を測定する。

中国は、アメリカとの比較において自国の競争力を分析している。ホワイトハウスは連邦議会に、アメリカの競争力がライバルと比べてどうかという予測・傾向についての年次報告書を提供すべきだ。「測れるものは改善できる」

④ 競争戦略を考え出す。

中国の、「政府による土地やエネルギーの提供、科学技術への莫大な投資、低金利あるいはゼロ金利の融資」に対抗するため、民間セクター、公共セクターが協力して、競争力を高め、財政・金融改革、技術革新をはじめ新たな競争戦略を考え出す必要がある。

⑤ 国内で共通性を見出す。

アメリカの対中政策を修正すべきだと主張する人は大勢いるが、往々にしていくつかの党派に別れ、互いをライバル視している。対中政策に関

し、政治的見解の相違から分裂して互いに協力しないということは中国を喜ばすだけであって、中国を変えるため、垣根を超えて大々的に手を結ぶべきである。

⑥ 国家の縦の協力体制を作り上げる。

天然資源を狙って中国は、東シナ海、南シナ海において、近隣諸国が団結して中国の野望を妨害しないように威嚇している。中国は、敵の一團に囲まれたら危険であると恐れている。アメリカは、モンゴル、日本、韓国、フィリピンなどの国々と同盟して中国を封じ、国際法に従わせなければならない。

⑦ 政治的反体制派を守る。

中国は、仏教徒のチベット人、イスラム教徒の新疆ウイグル人、キリスト教徒を弾圧している。アメリカは、最も有力な協力者になるようこれらの反体制派を支援し、100年マラソン計画に対処する。

⑧ 対米競争的行為に立ち向かう。

アメリカに対するサイバースパイ事件の90%以上が中国を発信元としている。ハッキングによって、中国は「発明できない技術」と「作り出せない知的所有権」を盗んできた。これを防ぐための強力な体制づくりが緊急の課題である。

⑨ 汚染者を突き止め、恥じ入らせる。

中国は温室効果ガスの排出量を、毎年5億トン以上増やし、環境に配慮しながら持続的可能な成長を目指すことを求める国際協定には一切従おうとしない。中国に、環境に責任を持って行動することを強く要求し、その態度を改めさせなければならない。

⑩ 汚職と検閲を暴露する。

中国は、出版・報道の自由について非常に恐れている。指導者たちが、腐敗や暴虐を行い、民主主義同盟国に対して嘘をついてきたことを国民が知れば、何をされるかわからないからだ。中国政府の検閲と宣伝工作を野放しにしてきたアメリカは、圧力をかけ、ウィキペディア、ヤフー、フェイスブックなどへの脅しをやめるよう迫るべきだ。

⑪ 民主化寄りの改革をサポートする。

中国のタカ派は、複数政党による民主的な選挙や一党支配を終わらせる統率者の出現を恐れている。中国における「法の支配」と「市民社会」を発展させるために、さらに多くの計画に資金を提供すべきである。また、経済の民主化についても、国有企業の縮小、強制労働の慣行の改善に本気で

進めていかなければならない。

⑫ 中国のタカ派と改革派の議論を監視し支配する。

マラソン計画が進んでいるとは言え、中国政府は一枚岩ではない。タカ派が多数派であるのは確かであるが、周辺にはなお改革や自由化擁護する人がいて、アメリカ風のモデルに近づくことを望んでいる。眞の改革者が誰であるかを突きとめ、支持・介入していかなくてはならない。

以上

<そうだ京へ行こう・古刹の花物語> (7)

大竹 漢州

東山の古刹・曼殊院門跡

曼殊院と呼ばれている寺名は、正式には「曼殊院門跡」です。門跡は、皇族皇子、貴族が住持を務めた特定な寺院を称しています。宇多天皇が、仁和寺に入ったのが始まりで、室町時代から寺格を表す語となりました。門跡寺院には、外壁の築地塀には必ず五線の筋紋様が引かれてあり、特に皇族皇子が門主であった門跡寺院には勅使門があり、菊の御紋を戴いています。今日まで格式の高い門跡寺院としての伝統が守られています。

曼殊院は、詩仙堂、圓光寺から続く、閑静な住宅地の路を北東に歩くと、車では数分ですが、ゆっくり歩いても 15 分程度で着けます。やがて右側に石積みの下壁の上に、五本線のある築地塀で囲まれた寺院の山門が姿を見せきます。石積みの上には色取り取りの落ち葉が、秋を飾っています。

東山三十六峰の北山麓に連なる多くの古刹は、比叡山延暦寺の結界で仕切られた寺域にあり、天台宗派と強い関係にある寺院が多く残っています。今日までの曼殊院は有為転変の歴史に翻弄されました」。

余談です。「有為転変」は仏教用語です。様々な因縁から生じた現象、また、その存在を言います。人間の生き方そのものです。絶えず生滅して無常な世界です。

曼殊院の開基は、他の天台宗門跡寺院と同様に天台宗との関係が強く、延暦年間（782-806）に天台宗祖師伝教大師が草創した比叡山の西塔北谷の東尾坊（小寺院）に始まります。

一方で東尾坊に就いた門主も天台宗の寺院でありながら、特異な経過を辿っています。平安期（天暦元年 947 年）に至ると、東尾坊の門主に就いた是算国師が、菅原氏の出身であったことで、北野神社（北野天満宮）が造営されると、勅命で北野神社の別当職（責任者）にも任じられて、曼殊院門主を兼務する様になりました。12 世紀頃には、北山（左京区・鹿苑寺付近）に学僧忠尋門主が別院を建て、寺号を初めて「曼殊院」と改めています。別院を建てたのは、北野神社の便のためであり、並立はしばらく続きましたが、やがて北山の別院が主体と成っていきました。その後門跡寺院に格上げされたのは、北野神社の別当職に代わって、代々の皇族が座主を務めるようになっ

た室町期以降です。

再び曼殊院は、洛中（上京区・相国寺付近）に移転後に、この地一乗寺竹の内に移りました。江戸時代初期の明暦2年（1656）の事です。この地を愛し「曼殊院の調和美」を完成させた良尚法親王の強い意志があつたためです。

法親王は持つて生まれた芸術的才能を遺憾なく發揮して、この地に曼殊院の寺名「曼殊」を実現させた人物でもありました。「曼殊」も仏教用語で“最高の極み”と言われています。

曼殊院門跡の表門は、築地塀に中央の勅使門です。石段が上にありますが、一般観光客は勅使門を過ぎた玄関にあたる庫裏です。石造の甲冑を身にした大黒天が迎えます。大黒天は梵語では摩訶迦羅、密教では自在天の化身、仏教の守護神となった天部です。後に何故か厨房の神として祀られるようになります。仏も神も時代の情勢で役割も変わるように見えます。

余談です。ここ曼殊院の建物様式、襖絵、欄間装飾や調度、更には建物を生かす庭園造りまで調和美があり、良尚法親王の極め細かな仏教的な思想が生かされています。庫裏にも法親王の思想が見られます。大妻屋根の扁額に、ご自身の筆で「媚竈」と善かれてあります。「媚竈」は法親王が論語から引用した用語で、”その奥に媚びんよりは、むしろ竈に媚びよ”と諭しています。

本来の大玄関である勅使門から曼殊院に大玄関から入ると、先ず客人を迎えるのは「虎の間」で、襖に描かれた数々の姿体をした虎たちです。狩野永徳の作。永徳自身は虎の生態を知らないで描いた様に感じられます。力強く描かれた虎が、パンダのように竹を齧っている襖絵も見られます。ユニークな襖が「竹の間」です。「竹の間」は「虎の間」と廊下で隔てられています。

同一の竹がパターン化されて、金襖を埋めています。江戸時代の版画で制作された襖絵です。良尚法親王後の発想に違いありませんが、今日でも通じる斬新さを感じました。既に江戸時代初期には、孔雀はオランダ船でインドから長崎に入っています。写実的に孔雀を模写した「孔雀の間」を通って大書院に進みました。

曼殊院は、醍醐寺三宝院に並ぶ書院造りを代表する建築物です。書院作りは、室町時代末期から起り、江戸初期に完成した日本的な住宅様式です。それまでは平安時代に誕生した寝殿造りでした。書院造りは和風住宅として、現在まで日本的な建築様式の基本にまでなっています。書院造りの特徴は、接客間を独立させて、主座敷を上段として床の間・違い棚を設けていることです。主人の私的な空間として小書院（附書院）も付属されました。床は寝殿造りのような板張りではなく、床全体に畳を敷き詰め、角柱間には襖と障子で各部屋を仕切り、建物の外回りには板雨戸が用いられるようになりました。

曼殊院と大書院は、南面に庭園のある二部屋で構成されています。正面東側が客間で「滝の間」と呼び、西側の奥間の「十雪の間（たそがれの間）」との間を隔てている欄間の装飾が独特で「卍くずし」と称されています。曼殊院独特の欄間装飾です。部屋の杉戸と引手金具にも繊細な配慮がなされています。瓢箪や扇の意匠をして、桂離宮と共にした美意識があります。「十雪の

間」の背後に「仏間」が設けられています。ご本尊阿弥陀如来像を中心にして歴代の法親王の位牌が安置されています。良尚法親王の72歳のお姿を写した仏画が、仏間の左側に掛けられてありました。法親王は学問や書、花道、茶道、絵画、更には建物・庭園造営に至るまで非凡な才能を發揮した武骨な表情はしていますが、風雅を極めた人物でした。東面に違い棚と床の間が設えてあります。書院造りの特徴です。

余談です。曼殊院の造営に心血を注いだ法親王の父は、桂離宮を造営した智仁親王、修学院離宮の造営に携わった後水尾天皇は、法親王の叔父にあたります。曼殊院の造営に関して良尚法親王は、この建物の造作・庭園の竹庭に関して、お二人に勝るとも劣らない最高の調和美を実現する強い意識を持たれたに相違ありません。良尚法親王は賢い人物であったに違いありません。天皇に即位する望みが断たれた後、自らの非凡な才能を美の世界に注ぎ、且つ関係させました。良尚法親王が発想した美の世界が、今日まで存続していることは素晴らしいことです。

曼殊院は桂離宮にも修学院離宮にも勝る書院です。江戸時代を代表している建築物であると言うことは、蛇足です。

大書院に続いて小書院があります。門主の個人的な空間(富士の間)です。各所に”粋”な工夫がしてあります。違い棚は多くの種類、木材を組み合わせて、独特な味わいを醸し出しています。「曼殊院棚」と呼ばれています。長押は、富士山型の七宝製で釘を隠していますが、一つとして同じ意匠はありません。屋根は「柿葺」です。因みに「柿葺」は死語になってしまいました。木材を細長く削り取った板です。この細長い板を建材にした屋根です。小書院の入口には、独特な意匠をした梟の手水鉢があります。手水鉢の四ヶ所に梟がとまっています。磨耗しているので、大きな蟬の姿に見えます。

小書院の奥には、有名な茶室「八窓軒」があります。「八窓軒」とは文字通りに、壁面と天井に八ヶ所の障子の明かり取り、即ち窓があります。明るい茶室ですがガラスの無い時代の天井窓の工夫には気に掛かります。

大書院の南面に枯山水庭園が広がっています。庭の奥に置かれた滝石を芯にして、白砂を水に見立てて、手前の水分け石から広げ、途中から鶴島、亀島を取り巻く様に導いて完結しています。尽きることなく水は流れ出ているように感じさせます。鶴島は根元に植えられている樹齢400年もの五葉松が鶴を模っていることに、かつて亀島には地を這うような五葉松があったことに由来します。何故か鶴島の五葉松の下にクルスの彫られた灯籠があります。人呼んでキリシタン灯籠・曼殊院灯籠と言われています。謎として残っています。謎があった方がロマンを感じます。

滝石の左手に大きな一本の楓が、陽に当たって真っ赤に燃えるように輝いていました。砂の白と五葉松の緑と誠に見事な色彩調和です。この枯山水庭園の作庭は見事です。今日でも良尚法親王の美意識が維持されています。曼殊院門跡は、禅的な瞑想と王朝風な意匠が結合して、今では失われてしまった日本的な美を目醒めさせてくれる建物であり庭園です。

文化講座・講演会・美術展

奈良興福寺文化講座 28年9月29日（木曜日）

午後5時半～6時半：第一講

講演：「西洋建築から見た興福寺三重塔・5重塔」

その2：ゴシックの大聖堂との比較

講師：千葉県文化財保護審議会委員 丸山 純

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：（学）文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

（JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分）

第75回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 10月20日（木）13:00～15:00 如水会館。

2. 演題・講師 『沖縄の米軍基地—安全保障と歴史認識』

橋本 宏 元シンガポール、オーストリア大使
沖縄担当特命全権大使

申込・会費 E-Mail：shinsanmokukai@gmail.com（本メール返信）

TEL:047-464-4063（留守電有）

フルネーム・卒年・所属（例：蔵前工業会、一般・紹介者）

会費：2000円 婦人1000円（如水会員は2千円）、学生無料

4. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内110-2 ベルデュール103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール info@sudoh-art.com

ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

菅創吉展<すどう美術館コレクション>

会期～9月30日（金）

開館時間 10:00～17:00（最終日～17:00）火曜定休

入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）

会場 箱根芸術空間 風伯

〒250-0311 足柄下郡箱根町湯本540-4

Tel 0460-85-7440

すどう美術館 コレクション パート 2

会期 10月7日（金）～12月26日（月）

開館時間 10：00～17：00 火曜定休

入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）

会場 箱根芸術空間 風伯

〒250-0311

足柄下郡箱根町湯本 540-4

Tel 0460-85-7440

* 講演会 10月22日（土）午後2時 「豊かに生きるー美術との出会いー」
すどう美術館 館長 須藤一郎

事務局

<事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書の推薦依頼>

<プリント版・郵送>

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくださいと送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいているのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」 （普通）7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・432号

発行：2016年9月15日

: 天地シニアネットワーク事務局 (津田 玄人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp
URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>